

## 「出会い」

この絵の時期は11月下旬の正午頃、場所は東京都にある高尾山薬王院本堂の前の広場です。高尾山のことについては昨年の本誌327号「輝く木々」に述べたので細かな重複は避けたいと思います。

高尾山を訪れる人は年間300万人とも言われていますが、時期別に見る（2005年のデータ）と年間全体のほぼ1/5が11月に訪れているようです。暑い夏を忘れさせてくれる秋、標高も約600mとそれほど高くなく、木々も美しく紅葉し、晴れた日には山頂から周りの山々を従えた富士山が見える高尾山は山登りに縁のない人達にも手頃な、親しみやすい山なのだと思います。

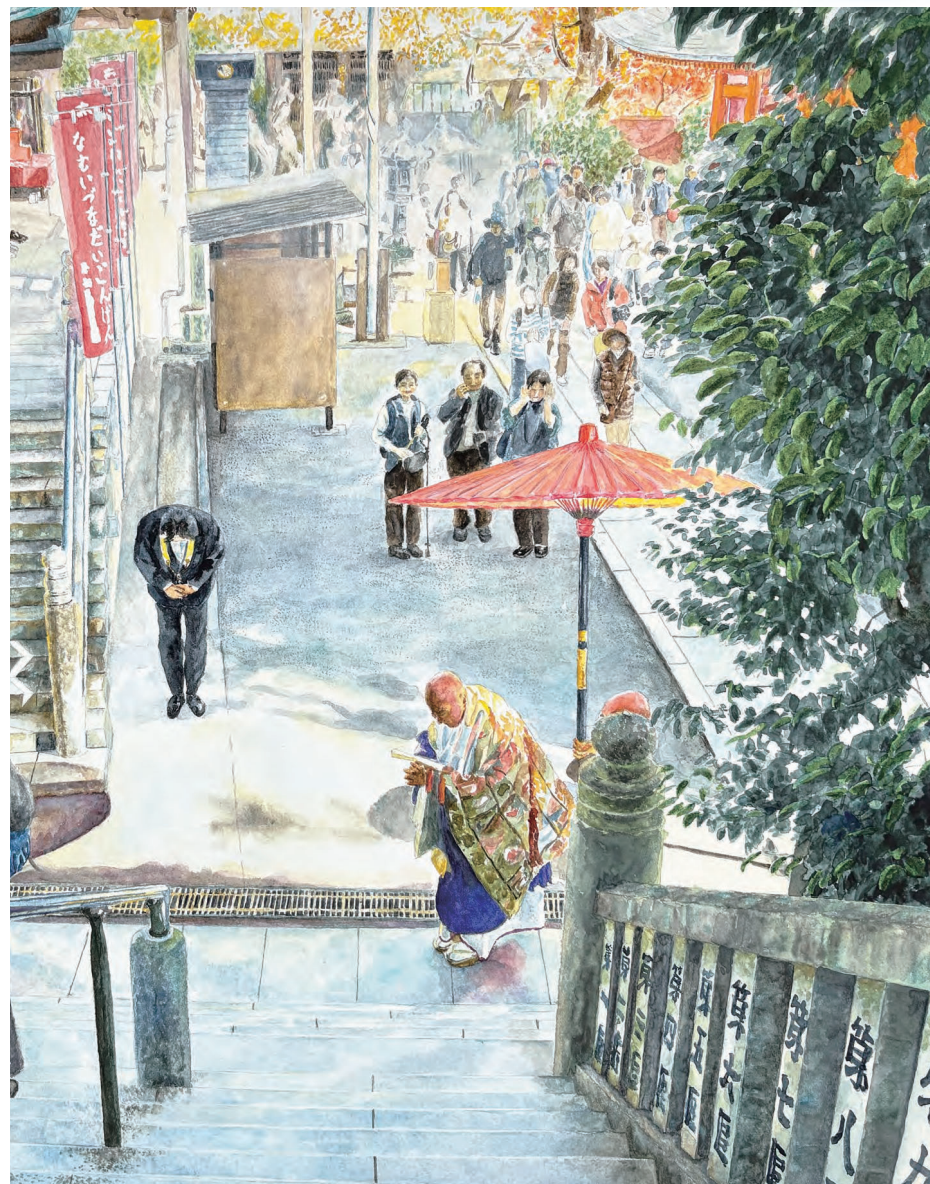
登山者に混じって薬王院を過ごし山頂を目指す時、振り返って見ると薬王院前の広場の大香炉の煙に包まれて下からやって来る人、広場に上から戻って来る人、更に挨拶（？）しつつ進む貫主の行列と、人々の出会いを見ることができました。街の中での出会いとは異なる雰囲気を感じるの、すれ違うと自然と挨拶をするなど、ある種の仲間意識のせいでしょうか。

「出会い」を辞書に尋ねると、『①出あうこと。初めて顔を合わせること。②2つの川・沢の合流する所。③調和すること。合うこと。④密会…』とありました。この絵は意図せずして出合った人々の動きの面白さを表したいと思い制作しました。辞書の説明に見合った場面が見つければ嬉しいです。

今年は、山中はもちろん街中でも熊とばったり出会し沢山の方が被害に遭っておられます。同じ出会いでも御免被りたいものですね。来年の夏が今年のような猛暑でないこと（出合わないよう）を願い筆をおきます。



菊岡 保人



Size : 530×455mm (F10)